

福永正三先生随聞記〜ど真剣やで〜

「おまんは、わしの阿難になれ。阿難尊者はお釈迦さまの侍者として、常に説法を聞いていた。おまんもわしの侍者なんだから、わしの説法を後世に伝えよ」

「仏教経営者塾」専任講師・故福永正三先生の鞆持ちを 5 年間務めた秘書が書き留めた随聞記。

■筆者紹介

竹嶋克之（たけしま・かつゆき）

「六花の会」事務局員。同じ寅年、阪神タイガースファン、下戸、甘党が気に入られ、福永正三講師の指名で秘書を務める。福永講師と全国を旅し、立正佼成会の「仏教経営者塾」を運営した。また、福永講師がコンサルを務めた盛和塾（稲盛和夫塾長、2019 年閉塾）の経営者とのネットワークづくりも担った。

「あんたは教会で徳を積み」

教会長を通して、福永先生に経営指導を懇願するご婦人がいました。親御さんが残した土地でスナックを始めたが、閑古鳥が鳴く毎日。なんとかしてほしいとの相談です。

軽自動車以案内された店舗は住宅街。「こんなところで客商売は無理だろう」と思いました。店舗の中をじっくりと観察された先生は、こんなところにこんなものを置くな！これはこうしろ！ああしろ！と事細かく指導し、「若い女の娘をひとり雇いなさい。ひとりでいい。あんたは店に出なくていい。毎日、教会で徳を積み。ええか、ど真剣にやるんやで」とおっしゃいました。

帰りの電車の中、私は先生に尋ねました。

秘書 ただでさえ赤字なのに、人を雇ったら、もっと赤字になるじゃないですか。どうして、あんな指導をされたのですか。

福永 おまんがいないときに、わしはあの人的人生を聞かせてもらった。若いころに離婚して、3人いた娘さんたちは次から次と家を出て行ってしまったそうや。あの人からは人が離れていく。そういう人が客商売をやっても、うまくいかんや。

半年後、私は一人でお店を覗きにいきました。びっくり仰天！午後 7 時というのに満席で、お店はてんてこまいでした。ご婦人は、その後も教会でお役を務め、経営を伸ばす精進をされているそうです。

「ベクトルが合うまで話し込め」

福永先生は「毎月1億円の赤字会社を、毎月1億円の黒字会社に変えた男」と称され、稲盛和夫先生の勧めで『会社再建－サラリーマンを超えた男』（出版文化社）を出版しています。同書はいまも「京セラ稲盛哲学実践の書」として、稲盛門下生に読み継がれています。書籍に書かれていないエピソードをお話くださいました。

福永 会社を再建するときにな、社員に本を買って読ませ、感想文を書かせたわ。わしの考えに合う感想文を書いた社員を集めて、改革をはじめたんや。

秘書 先生！その本を教えてください！

福永 童門冬二さんの『小説 上杉鷹山』や。

福永先生は、立正佼成会の「仏教経営者塾」でも、京セラフィロソフィの「ベクトルを合わせる」を、次のように説かれました。

「全員の力が同じ方向に結集したとき、何倍もの力となって驚くような成果を生み出します。1 + 1 が5にも10にもなる。従業員には『こういう考えで経営し、こういう方向を目指していきます』と訴え、その方針に同調してもらうこと！ベクトルが合うまで、ど真剣に話し込むのです」

「1千万のお布施をした。どうなったと思う？」

九州に向かう新幹線の中で、福永先生が話しかけてきました。

福永 京セラの退職金の半分を教会にお布施させてもらったわ。1,000万円や。どうなったと思う？

秘書 （しばらく思案しても、わからないので）阪神が優勝した！

福永 アホか！まじめに答えんかい！

秘書 先生、わかりません…。教えてください。

福永 （秘書の耳元で）10倍になって還ってきたわ。

この経験から、先生は「儲かったら、教会にお布施をしろ」と、よく説かれていました。「第1回仏教精神に学ぶ経営者の集い」（平成30年12月16日、大聖堂）の開催が決まると、「当日までに、みんなで3千万円のお布施をしようやないか」と呼びかけました。1億円を超えるお布施が集まりましたが、私にもお布施を説かれました。

福永 わかってるやろな。おまんもお布施するんやで。

秘書 えっ!?

福永 本当は100万だけど、おまんはサラリーマンだから50万でええわ。

秘書 50万ですか!?

福永 ほうや。必ず倍になって還ってくるから、ど真剣にさせてもらえ!

嫁の快諾を得て、50万円を教会にお布施させていただきました。ひと月も経たないうちに、倍になって還ってきました。この功德に驚いた嫁が言いました。

嫁 本当に福永先生のお言葉通りになったね。あのとき、100万させてもらったら、どうなってたかね!

「稲盛さんも、こうしてくれたからな」

予定の仕事が早く終わり、福永先生が夕食をご馳走してくれることになりました。ワクワクしながらついていくと、牛井の吉野家でした。

福永 稲盛和夫さんがご馳走してくれるときは、いつも中華そばやったわ。水を運んできてくれて、一番安い中華そばをご馳走してくれた。

秘書 ……。

福永 そばを食べ終わってからの稲盛さんはすごかったわ。「京セラをこういう会社にしたいんや」と、夢と希望を何時間も語って聞かせてくれたんや。おまんにも、わしの願いを伝えとく。稲盛さんも、こうしてくれたからな。

秘書 (カウンター席だから、早く出なければいけないのに…)

福永 心を高めることや。自分というものを大事にし、一日一日、一瞬一瞬をど真剣に生きていくことや。そうしたら、おまんの人生は大転換する。

気がつくと、1時間が過ぎていました。先生のだ真剣さに引き込まれていたのです。カウンター席で支払いを終えた先生は、最後にこう言いました。

「心を高め、善きことを想い、善きことを実行すれば、おまんの運命は変わる。宿命も変わる。これが、わしが稲盛さんから教えてもらった極意や」

「親がそんなことでどうするんだ！」

あるボランティア団体で講演をしたときのことで、福永先生への質疑応答が盛況で、終了後、団体幹部が切り出しました。

幹部 福永先生、娘のことなんですが、ちょっと聞いてくれませんか。東京の青山で美容師になったのですが、3年も経つのに、シャンプーしかさせてもらえません。あまりにひどい会社なので、早く辞めさせて、実家に戻そうと思うのですが、どうでしょうか。

福永 美容師といったら職人だわな。あんたの娘さんがシャンプーしかさせてもらえないのは、そのくらいの腕しかないということや。何を甘えたことを言ってるのや。「もっと、ど真剣にやらんか」と言わなあかん。親がそんなことでどうするんだ！

幹部 す、すいません…

幹部は真っ赤になって頭を下げていました。

講演中の先生はニコニコ顔ですが、質疑応答になると、人が変わったように厳しくなります。あまりの迫力に怖気づく人もいます。

しかし、それは庭野日敬開祖の教え＝人間には無限の可能性がある＝を信じ切った、先生の真骨頂だったのです。

「お賽銭はこうするんや」

コンサル契約を結んだ会社には、月初めの神社参拝と清掃奉仕を奨励していました。ある社長が福永先生とお賽銭の話をしていました。

福永 社長は、神さんにいくらお賽銭してるんや？

社長 はい、千円です。

福永 だから、あんたはダメなんだ！

朔日参りは神さんと約束する日や。

お願い事をするんやない。

「今月、我が社は〇〇円の売り上げを達成します！」と誓いを立てる日や。

ど真剣に誓いを立てるんだから、最低1万円は出さんかい。

絶対に達成するんだという気力が漲ってくるわ。

お賽銭はこうするんや。

帰りの車中、私は先生にお礼を言いました。

秘書 先生、有難うございます。
今日のお賽銭のお話は勉強になりました。
神社は、そうやってお参りするものなんですね。
私は校成会の朔日参りでよかったです。

福永 教会の朔日参りで、いくらお布施しとんのや。

秘書 (自信をもって) はい、千円です!

福永 だから、おまんはダメなんだ!
校成会の朔日参りも神社と同じや!

秘書 ……。

「校成会のおかげや。辛いとは思わなんだ」

京セラの稲盛和夫名誉会長は、とても厳しい経営者だったそうです。あまりの厳しさに退職する人が沢山いたそうですが、福永先生は最後までついていき、稲盛名誉会長から「免許皆伝」を得るまで精進しました。

秘書 京セラは「100メートル走のスピードでマラソンを駆け抜けるような努力を続けてきた」そうですね。
そんな過酷な働き方に、福永先生はどうやってついていったのですか?

福永 それは校成会のおかげや。
わしは若いころ、京都支部（現在の京都教会）で修行させてもらった。
諸井克次支部長さんのお供で、導き修行にも行かせてもらった。
当時は、信者さんの家に泊まりながら布教をしたもんや。
諸井支部長さんは、相手が「入会します」というまで絶対に帰らない。
そういうお供修行をしてたから、京セラでの仕事は辛いとは思わなんだ。
わしは稲盛さんが血を吐いて倒れるのを3回見た。
大將がど真剣に働いている姿を見てたから、自分が楽しようとは思わなんだな。
いまから大切なことを伝えておく。
稲盛さんの言われる「誰にも負けない努力」と「結果の出ない努力は努力ではない」
を、魂に叩き込んでおくんやで。

「没落する社長の三悪」

東北支教区「仏教経営者塾」打ち上げ時のことです。塾生の皆さんが、福永先生に一年間の感謝の言葉を述べると、「わしにも一言、話させてくれ」とマイクを取りました。

福永 わしは 350 社の経営コンサルをしてきた。
皆さんが一年間、勉強した「経営の七箇条」を、ど真剣に実践すれば、必ず儲かります。これは実証済みです。
しかし、ちょっと儲かると、墮落し、没落する社長がいる。
没落する社長の三悪を、いまから伝えるから、肝に銘じておきなさい。

<ちょっと儲かると、生活が派手になる>

金品を身に付け、スポーツカーに乗ったりして、飲み歩く。
「社長ばっかり、いい思いしやがって」と、従業員の心が離れていくんです。

<ちょっと儲かると、外に女をつくる>

邪淫ですな。当然、家庭は不和になる。争いごとが増えますな。

<ちょっと儲かると、博打に手を出す>

これはギャンブルだけじゃありません。土地や株の投資に手を出し、大損する。
負けを取り返そうと、また、投資して失敗する。

皆さんの同業者にも、こういう社長がいるでしょう。
だから、私は儲かったら、先にお布施をきなさいと説くんです。
すべては身を減ぼさないためです。
佼成会以外でもよい。会社の氏神様やお寺さん、海外の困っている人々への寄付でもよいのです。
ど真剣に儲けたお金を、世のため、人さまのために、お布施することで、三悪は止悪となり、経営は悪くならないのです。

「開祖さんがそばについてくれる」

福永先生は、毎月 1 億円の赤字会社だった富岡光学を、毎月 1 億円の黒字会社に変えました。

再建の努力は並大抵のものではありませんでしたが、開祖さまのご指導が一番大きかったと言います。

福永 富岡光学は、東京の青梅にあったから、練成道場に来られる開祖さんに話を聞いてもらったことがあるんや。

「いやあー、先生。最後にババを引きましたわ」と、会社の現状をまくしたてたら、開祖さんがこうおっしゃったんや。

開祖 福永さん。
あなたのお話を聞いていると、愚痴を言っているようにしか聞こえませんね。
大変な会社だと思っていることがよくない。
それを一切おやめなさい。
いっぺんに会社が良くなりますよ。

福永 わしは会社の実状を説明してるだけやったが、開祖さんにしたら、それがもう愚痴やったんや。
よおーし、わかった！と、それから愚痴を言うのを一切やめた。
そして、ど真剣に取り組んだんや。
再建まで死闘やったが、開祖さんがそばについてくれると思うだけで勇気が出たわ。

「ど真剣に生きたから、ほんとに楽しい人生やったわ」

余命八か月の告知を受けても、福永先生は東奔西走して、「仏教経営者塾」の講師を務めました。最後は、ワゴン車に布団を敷き、横になって移動しました。
車椅子から海を眺めていたときのことです。

福永 わしの寿命も、あとわずかや。

秘書 先生！そんなこと言わんといてください。

福永 わしは、末期癌の女房の病室に寝泊まりして看取ったから、よーわかるんや。もう長くはない。
開祖さんと稲盛さんの弟子として、ど真剣に生きたから、ほんとに楽しい人生やったわ。

秘書 先生！「仏教精神に学ぶ経営者の集い」（平成30年12月16日）で講演の大役が待ってますよ。大聖堂ですよ！

福永 かにんやで。あと 3 年あったら、「六花の会」を全国組織にできたかもしれんな。わしを見つけて、光を当ててくれたのは國富敬二教会長（現教団理事長）や。國富さんを中心に「六花の会」を育てていくんやで。

福永先生は平成 30 年 11 月 17 日に大往生されました。川端健之理事長さん（現教団顧問）が付けられたお戒名は「盛生院法眞敬徳信士」。稲盛和夫さんと開祖さまの弟子として、ど真剣に生きられた先生を讃歎されたお戒名です。

「福永正三先生随聞記」～ど真剣やで～ 終わり